令和３年度　第４回　交野市基本構想審議会

【日　時】　令和４年３月２５日（金）午前 10 時～午後 12 時
【場　所】　交野市役所別館３階中会議室
【出席者】　委員１７名（欠席３名）
　　事務局７名
【傍聴者】　なし
【議　題】　１．前回の振り返り及び基本構想案について
　　２．基本計画のフレームについて
　　３．その他

１．開会

- 事務局による挨拶。委員２０名中１７名の出席確認
- 委員長による挨拶と本日の議題の確認

２．議題１　前回の振り返り及び将来に向けての課題について

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明。

- 資料１－１「第３回基本構想審議会における指摘事項への対応について」
- 資料１－２「交野市人口ビジョン令和４年３月改訂版《概要版》」、資料１－３「交野市人口ビジョン令和４年３月改訂版」
- 参考資料「事業者・市民活動団体員に対するアンケート調査結果」
- 資料１－４「第５次交野市総合計画基本構想　素案《概要版》」、資料１－５「第５次交野市総合計画基本構想　素案」

（会長）

- これらの内容はいずれも関連する内容であるため、資料をまとめて説明いただいた。委員から質問・意見があればお願いしたい。

（委員）

- 資料１―５の基本構想（素案）17 ページの下から４行目「市民活動の活性化とあわせて、公民連携や広域連携など多様なパートナーシップにより課題解決を図る必要があります」について、説明が不足していると思う。公民連携や広域連携など多様なパートナーシップにより課題解決を図るとはどういうことか説明を加えた方が良いと思う。

（事務局）

- 「公民連携」とは行政分野と民間事業者とのパートナーシップであり、通常では委託事業や契約関係に基づく事業の進め方が一般的である。しかし、そうではなく、契約よりも一段階広く特定の地域課題等に対して、お互いの知恵を出し合って、Win-Win となる仕組みづくりが可能かを検討していくことを想定している。これは全国的にかなり広がってきている。

- 具体例としては、地域公共交通の事業が難しくなっているエリアに対して、AI 技術を持っている事業者が、どのように自動運転バスを導入すればビジネスベースにできるかを共同で実験するような取組みである。大阪府、近隣市町村でも徐々にそういった取り組みが出ている。
- 交野市の事例としては、小学生の見守りの仕組みとして、小学生１人１人が IC チップの入った見守り端末を持ち、町中に張り巡らされたセンサーを使って、保護者の携帯で子どもの位置を確認できるという取り組みを行っている。これは委託契約ではなく、お互いの強みを生かした枠組みとして始めている。そのような取り組みの可能性に期待して表現したものが公民連携である。
- 広域連携は、特に行政間で行う面が強いが、例えば生駒市と連携して山貸しの取り組みを行っている。本市単独で全ての行政サービスを（フルスペックで）提供し続けられるかという観点からも様々な検討が必要であることから記載した。

（委員）

- 資料１－５の 12 ページ「Ⅱ．将来に向けての課題」の３番目「地域のブランド力を高めていくことが必要」とあるが、交野市といえばこれといったものがあるのか。数年前までは交野市はどこにあるのかと、言われていた記憶がある。例えば鎌倉市や、箕面市といえばこれというイメージがある一方で、交野市といえばこれというものがあるのか。それが地域のブランド力だと私はイメージしていた。地域のブランド力を「作り高めていくことが必要」という表現が正解ではないのかと思う。現在、ブランド力があるものがあれば、高めていくことが必要という表現になるが、交野といえばこれというものを、これから皆さんと一緒にもっと強力につくっていく必要があると考えるが、どうか。

（事務局）

- 御指摘はごもっともな部分があると思う。全体としては知名度を上げていく。その中身としては、交野として外に向けてどういった魅力があるかを説明できるような、アイデンティティーのようなものをつくっていくことも必要であると考えているため、記載内容の表現を見直していきたい。魅力をつくって、発信し、それが良い形で循環して地域のブランド力を高めていく、そのようなイメージが伝わるように整理したい。

（委員）

- まちづくりの目標で、「みんなが」というフレーズを付けていることは非常に良いと思う。しかし、例えば 20 ページに「１．みんながのびのびと学び、みんなで子どもを育むまち」と書かれているが、同ページの各項目を読むと、「みんながのびのび」は、どちらかというと生涯教育のイメージに思われる。ほとんどの文章が、子どもたちに注目をして書かれていると読み取れるので、「子どもがのびのびと学び」とするか、それとも全世代を対象とする方向で目標を作っていくのか、事務局及び各委員はどのように考えるか教えていただきたい。
- 同様に４番目の目標「４．みんながつどい、交流が生まれるまち」とあるが、ぼんやりした形だと個人的には感じている。「みんながつどい、交流が」では、ただ集まってきて、お互い何らかの交流がされるのかなという、感覚的にはふわりとしたイメージを持つ。「まちの強みを生かし」「地域の活力が維持されるまちを目指していく」「地域が元気になり」のようなフレーズが来てはどうか。事務局及び各委員がどう考えるかを知りたい。

（事務局）

- 委員の指摘に関して、このように整理された経過をお伝えしたい。20 ページ「みんながのびのびと学び、みんなで」という言葉は、確かに生涯学習の分野として解釈される場合もあると思う。広く言えばそのような意味があると思うが、主としてはご指摘のとおり、子どもが伸び伸びと交野というフィールドで学び成長していってもらいたい。そして、それを皆で支えていこうというコンセプ

トがワークショップの中でかなり出てきていた。そのため、地域全体で温かく子どもや子育てを支えていくまちだということを表現したかった。しかし、ご指摘のとおり解釈に依存する部分があるため、事務局も持ち帰って検討するが、良い言葉があればいただければと思う。

（委員）

- 恐らく「みんなのこころが　和むまち　かたの」の「みんな」を付けて、始まりを「みんな」で揃えたと思うが、私もかえってぼやけてしまう印象を抱いた。これからの行政にとって、行政だけで解決できないことが沢山あるため、この多様な主体との協働・パートナーシップが大事だと思う。その要素を入れたいのであれば、例えば、３番目「３．みんなが助け合い、安心して住み続けられるまち」は、「みんな」の言葉にこだわらずに、多様な主体との協働を分かりやすく具体的に落とし込む形で目標を掲げた方が良いと感じた。

（会長）

- 本日時点では素案のため、作成の背景を理解しながら、各委員の意見をどこまで反映できるかという点はあるが、事務局で検討して、再度提示させていただきたい。したがって、ご指摘については事務局の検討課題としたい。
- ワークショップや若手職員の意見を踏まえて、事務局判断の下に出てきたキーワードであるため、そこを踏まえたご意見があればお願いしたい。

（副会長）

- 私も先の委員と同様に「みんな」という言葉は、交野市ではみんなで考えて決めていること象徴して良いと思うが、３番目のまちづくりの目標の背景は、防災等があると思うため、助け合いだけでは難しいのではないかと感じた。そして、前提としての「みんな」が誰なのか。市民かと思うが、基本構想を読み進めると、「市民・地域・事業者・行政」と書いているため、それらも含んでいると思う。しかし、そこがぼやけており、３番目は特に「共助」だけを強調していると捉えられがちのため、この各主体の連携・協力という言葉の方が良いと思った。このため、「みんな」は「安心して住み続けられる」の言葉に付けると良いと思った。更に「みんな」の言葉を使うのであれば、最初に「みんな」が誰なのかを説明しても良いと思う。
- また、２番目のまちづくりの目標の表現が少し気になった。「笑顔にあふれ」るのは、結果であり、「互いに認め合い、笑顔があふれるまち」の方が良いと感じた。

（会長）

- １番目のまちづくりの目標は「みんなで子どもを育むまち」である。副会長は順番を入れ替えられたが、２番目の目標は、このままの順番であれば「互いに認め合う」「認め合えるまち」が言いたいことになる。３番目は「安心して住み続けられる」、４番目は「交流が生まれる」、５番目は「自然や文化を慈しみ、次世代に引き継いでいく」であり、これらが言いたいことに当たると思う。
- それを誰が行うのかというときに、いわゆる協働やパートナーシップで進める点を全部に付けようとしているため「みんな」が繰り返し出てくる。これをどう考えるかだと思う。他にも意見を頂いて事務局で検討させていただきたい。
- 後で説明があるが、これらの項目が基本計画に反映されていく。基本計画は分野別に何を計画的に行うかを示すことになるため、各分野が基本構想で見えていた方が良い。例えば５番目の自然、歴史、文化であれば、それに対応する行政、市民、事業者が、その分野で一緒に事業を行うこが、それが基本計画を受けた実施計画に更にぶら下がっていくこともある。そういったイメージを出していくことが、前回の基本構想と大きく違う点である。
- 前回の基本計画は、分野が見えにくいと感じたため、今回は分野を目立たせて、具体的にどう取り

組むのかを、基本計画でしっかり書いていく予定である。今後、基本計画の案が出てから、改めて基本構想の内容を振り返ってフィードバックの意見をいただく必要があると考えている。

- 基本構想素案のため修正可能だと事務局も認識しており、意見をいただければと思う。

（委員）

- 12 ページの上の四角囲み部分で「多くの人々が住みたい・住み続けたいと愛着や誇りを感じるまちづくりが必要」とあるが、「愛着を感じる」と「愛着を持つ」では意味が違う。私は市民に対しては愛着を持っていただきたい。「愛着を感じる」は、少し柔らかい表現であるため、誰の目線かも大事にしつつ表現を検討して欲しい。「誇りを持つ」ではおこがましいかと思うが、愛着は持っていただきたいと思っている。

（委員）

- ３点述べたい。12 ページの「バランスのとれた人口構成」は、交野市では１：５：４をバランスの取れた人口構成と考えているのか。

（事務局）

- そうではなく、「現状のまま推移した場合」の 2040 年時点の人口比が１：５：４であり、バランスの取れた人口構成という意図ではない。

（委員）

- １：５：４は良くない状態だと理解したが、バランスの取れた状況が分かるようにした方が良い。

（事務局）

- 承知した。

（委員）

- ２点目として、15 ページ中段に「恵まれた自然環境、生活環境が評価され、戸建て住宅を中心とした住宅都市（ベッドタウン）という特性は」強化されているとのことだが、良い意味、悪い意味どちらの捉え方をされているのか。「強化されている」の言葉だけを見ると良い意味に聞こえるが、後の交通環境に関する記載では、悪い意味で書いているようにも思える。

（事務局）

- 交野市のこれまでの歩みから捉えると、良好な住宅環境を整えてきて、良好なベッドタウンとして発展してきたといった点では良い意味だと思う。しかし、現在の高齢化によって懸念すべき部分があるのではないかという意図で文章を設けている。

（委員）

- 住宅専門の副会長にお尋ねするが、ベッドタウンという言い方はどちらかというと否定的な言い方ではないか。良くない社会状況の意味で一般的に使われると思うがいかがか。

（副会長）

- 一概に悪いかどうかは分からないが、交野市で産業を育て、職住近接をうたっていこうとするならば、良い意味を持たせないで、この表現は取らない方が良いと思う。

（委員）

- ベッドタウンという言葉だけ削除すれば良いと思う。
- ３点目として、各所に DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が使われているが、これはデジタルや通信環境など新たな技術を取り入れて、社会全体を良い方向に変革していく。あるいは生活を豊かにする。組織を効率化するという意味で目標として使われている言葉である。しかし、この言葉が手段として使われている側面や部分がある。例えば、17 ページに DX を取り入れる

旨の記載があるが、取り入れるのであれば、デジタライゼーションを取り入れるである。各所に記載があるようなので、DX に関連する用語を再検討いただきたい。

（委員）

- 表現として見直す方が良いものがある。９ページ「⑤ライフスタイルや下記間の変化」の「多様な性（LGBT）」で始まる文章「多様な性（LGBT）や増加する在日外国人との共生に対する社会」という部分で、共生という言葉は外国人だけではなく、多様な性（LGBT）の方々まで掛かるかと思う。しかし、捉え方によっては、LGBT ではない立場の人がLGBT の人と共生するっていう表現に見える。交野市がLGBT ではない側に立ち、そちら側の視点から見ているよう捉えられてしまうため、表現を改める方が良い。他の文章はそのような書き方にはなっておらず、例えば 13 ページであれば、本当にフラットに全員で共生する表現となっていると思うため、そのような個所を参考にして修正いただければと思う。
- また、細かい指摘になるが、８ページ「④高度情報化社会の進展」に「ICT 技術」とあるが、ICT の T が技術を表すテクノロジーを意味しているため、ICT だけで良いと思う。

（会長）

- 事務局に検討いただくことをお願いする。

（委員）

- 14 ページの災害リスクに関して、地域における自治機能の低下や共助の弱体化も懸念されるが、災害や危険に対して、行政がどう準備をして、避難場所等をどう具体的に動かしてフォーメーションを構築するかについての周知ができていないのではないかと思う。自治機能プラス行政という枠組みで、この時にはこうするということを示すことで、リスクに対して市民が動けるようになると思うため、そこに行政側の体制を少し記載いただければと思う。
- ２点目だが、13 ページ「②多世代が活躍する地域共生社会の実現」、15 ページ、「④社会変化に対応した地域活力の創出」。どちらも市民その他の多様な団体の活性化や協働が関わると思うが、どちらにも市民活動の推進や活性化という言葉が入っていない。現在の交野市が、市民の力を大きく発揮しているかというとそうではなく、どちらかといえば低迷している状態だと思う。そのため、市民活動をもっと支え、市民活動を推進し活性化して、協働していくということを入れていただければと思う。特に「④社会変化に対応した地域活力の創出」に入っていなければならないことだと思うため、市民活動に対する言及をご検討いただければと思う。

（会長）

- 事務局としていかがか。市民活動は全てに関わる内容であるため、横出しも可能であるし、全てに盛り込むことも可能である。

（事務局）

- 事務局としては、今言われた通りのことを意図している。市民活動という多分野に関わるものについては、19 ページの図をご覧いただきたい。ここには、ある意味での夢や今後まちとしてこうあったらよいと思う姿が５つの目標として並んでいる。それでは、そこに対してどうアプローチするのかというと、みんなと協力しながらやろうということが、基本姿勢として示したかった点である。
- 25 ページの基本姿勢に「多様な主体との協働」を記載している。ここの２点目で、「活躍できる環境を整える」の表現があり、下の「将来に向けての課題（再掲）」の４つ目にはそれを目指す理由として「市民活動の活性化」が求められていることを記載している。立て付けとしては、５つの全ての目標に取り組む中で、市民活動団体も含めた協力は必要であるという構成にしており、より明確に見えるようにすることはできると思うが、意図としてはそのようなことを想定して作成してい

る。

（会長）

- ここは連携する推進主体のような要素と関わる部分であるため、今の基本構想から引き継ぐところは、しっかりと書いておくべきだと思うため検討いただければと思う。この横に書いてあるのが、先に説明があった「持続可能な行財政運営」である。それを支える担い手論、資金繰り、財政面と色々な要素がある。
- 後に記載しているという報告であるが、読む人とって良く分かる表現にしてはどうかという指摘であるため、検討願いたい。

（委員）

- 先の委員の意見に同感するのだが、私も参加したワークショップの印象を踏まえると、基本構想の 25 ページの図は非常にうまくまとまっているが、基本姿勢に少しだけ引っかかる箇所がある。このようなビジョンは、当然、行政、地域企業、コミュニティー、市民のそれぞれがしっかりと共有してぶれずに進むことが大前提ではあるが、ここで決まったことが基本計画や実施計画の運用に入ると、PDCA サイクルで回すことになる。
- しかし、現在は VUCA の時代と言わることがあるように、どんなことが起きるか分からない。世の中や生活が一転してしまうことが、いつ起きるか分からない時代になってきている。例えばだが、PDCA サイクルの中で計画を作って実行して、チェックをすることを行っていても、計画自体が社会の変化によって成り立たなくなることも当然起こり得る。基本的には PDCA で回すことは大切だが、そうではない状態になったときに、どうするかということである。一例として OODA ループがよく言われるが、要は現場で何が起きているのかを掴み、それに対して手を打って具体的に行動を起こしていく。計画がどうかよりも現場で起きたことに即時に対応して、対策を取って、それをループしていくあり方が言われている。
- 今後の基本構想期間の 12 年間で、計画が成り立たなくなる事態が起こった際には、何らかの対応を行う必要があるかもしれない。そこで何が必要というと人材と組織の力だと思う。企業も地域コミュニティーも必要だが、やはり中核を担うのは行政や自治体である。自治体の人材育成や組織作りに関することが基本姿勢の中にしっかりと入っていれば、市民としては不測の事態が起こった際にも行政は計画にとらわれず臨機応変に即座に実行する力があるとして、安心感が持てると思う。そういう要素を基本姿勢に入れて頂ければと思う。
- 当然であるが、行政は法定受託事務や法律、政令に基づく事務もあり、裁量が利かない部分がある。しかし、まちづくりに関しては、裁量が利く分野が多いため、先に述べたような事態に即座に対応できる人材や組織を作っていく。そして、将来何が起きてもしっかりと受け止める器があるということを、この中で記載いただければ、非常に安心感があると思った。

（会長）

- 基本構想で書くか、基本計画中の推進体制のような箇所に、職員の研修制度の充実や、防災の箇所で避難訓練だけではなく、学習機会や資格取得のようなことまでを書くかである。この基本構想では、様々な主体が準備することは書けると思うが、基本計画の中では、どう推進体制を整えていくか。
- PDCA を回していくかという話題があったが、基本計画の中で外部評価や進捗管理をどうするのか。そして、KPI をどうしていくのか。KPI は重要な進捗指標ではあるが、どこまで盛り込むか基本計画の中で検討していきたい。
- 基本計画中の分野別の主要な主体に関する体制を具体化させることについて、どこまで書ききれるか基本計画で検討したいと思うため、事務局はよろしくお願いしたい。

（委員）

- 内容ではなく表現方法に関して、23 ページのまちづくりの目標「４．みんながつどい、交流が生まれるまち」の囲みの２つ目の文章「快適な暮らしを支える生活インフラの維持によって住み続けたいと思えるまちを目指します」という内容は、３番目のまちづくりの目標「安心して住み続けられるまち」の方に、より合致するのではないかと思う。「４．みんながつどい、交流が生まれるまち」のコンセプトには少し合わないという印象を持った。

（委員）

- 17 ページ「Ⅱ．将来に向けての課題」の２つ目の中で「地域企業の活性化、新たな産業の誘致など、雇用・税収の安定的な確保に取り組むことが必要です」とあるが、先のブランディングづくりにも関係すると思うが、他市との差別化として、例えば自然のような交野の良さを生かしたまちづくりのビジョンを計画に盛り込んでいただければと考える。他市と同じになっては交野には来てくれないと思う。

（会長）

- どこまで書ききれるかということと、都市計画マスタープランや、緑の基本計画といった関連計画の中で環境整備に関わる話だと思う。事務局で検討いただきたい。
- 基本計画の議論が次年度から始まる。現時点の基本構想は素案であるため、基本計画の議論の際にもう一度、大きなタイトルと中身について検討する場面を設けたい。よろしくお願いする。

３．議題２　基本計画のフレームについて

（事務局）

＜事務局から資料２「基本計画のフレームについて」に沿って説明＞

（会長）

- 質問、意見があればお願いしたい。

（委員）

- 基本構想にもあったが、資料２の１ページ目の PDCA の図について、説明では毎年行うと聞いたが、図では４年に１回行うように見える。

（事務局）

- 実施計画については毎年、評価・点検を行う必要があると考えている。しかし、基本計画の４年間トータルについては、最終年度にまとめて実施するイメージを持っている。

（委員）

- 実施計画で PDCA を行うのではなく、基本計画で PDCA を１回行うということか。

（事務局）

- 実施計画と基本計画の両方で実施する。基本計画では、施策レベルで目標を設定することを想定しているため、施策レベルの進行管理に関しては、４年で進捗評価を行うことを想定している。一方、実施計画は基本計画の進捗評価とは別に、事業レベルでの目標設定を行うイメージを持っているため、１年ごとに進捗評価を行うことを想定している。

（委員）

- 承知した。

（会長）

- 総合計画と総合戦略をリンクさせることは、他市町村でもよく行われていることである。総合戦略は、総合計画の一部となりニアリーイコールとなるが、進捗管理としては４年に一度全般を通じて、指標を設けるか、設けないか、その指標化に向けて、子育て、まち、仕事、自然環境といった将来像をどう指標化するのかを検討する必要がある。これらは総合戦略には出てこない要素であるため、進捗管理に注意する必要がある。
- 一方で、毎年行う総合戦略の評価は、主に人口推移等が主体となるため、それ自体の評価は行うという方向で良いと思う。

５．議題３．その他

（事務局）

事務局から各委員に対して、令和４年度審議会への参加可能日程提示を依頼

６．閉会

- 会長による閉会の挨拶